

INFORMATION

■ オープンキャンパス		■ 京の美意識	
オープンキャンパススケジュール		概要	
第3回 9/23（土・祝） 10:00～17:00		●大学概要・入試概要説明 ●進学相談・個別相談・保護者相談 ●キャンパスツアー ●ランチコーナー ●作品講評 ●制作体験 ●実技講習(要予約)など	
[オープンキャンパスに関するお問い合わせ] 京都嵯峨芸術大学 入試課 TEL. 075-864-7878 E-mail. nyushi@kyoto-saga.ac.jp		2006年	
		10月21日(土)	「京の織芸術」 白井進（（株）龍村美術 織物取締役）
		11月25日(土)	「能と京都」 橋本雅夫、橋本光史（観 世流能楽師）
		12月16日(土)	「想いをカタチに」 深見陶治（陶芸家）
		2007年	
		1月13日（土）	「京の扇」 福井芳秀（（有）十松屋 福井扇舗代表取締役）
		2月17日（土）	「京の文化 -殺陣-」 上野隆三（殺陣師）
		3月24日（土）	「美の工夫」 千宗守（茶道・武者小路 千家十四代家元）
		[お申し込み・お問い合わせ先]	
		京都嵯峨芸術大学 芸術文化研究所内 「連続講座・京の美意識」係 TEL. 075-864-7898（直） FAX. 075-882-7770 geibunken@kyoto-saga.ac.jp	
■ 博物館展覧会スケジュール		■ あらし山びこ	
10/4(水)～12(木) DATE GLASS PROJECT		本学図書館の児童書コーナー設置を機 会とし、近隣の小学生や児童を対象に 開催するイベント「あらし山びこ」。 毎回テーマを決めて、そのテーマにま つわる絵本の読み語りや、お話などを 地域の方と交流しながら展開します。	
11/1(水)～12/22(金) 大覚寺展		9/9(土) テーマ「菊」 13時半より	
■ ギャラリースケジュール		京都嵯峨芸術大学広報	
9/4(月)～15(金) 博物館実習		第18号	
9/19(火)～24(日) fan!!drawing（イラストレーション）		2006年8月31日発行	
9/26(火)～29(金) summer work's展（油画）		編集●京都嵯峨芸術大学 企画広報室	
10/3(火)～15(日) The new edge of arts展		発行●学校法人大覚寺学園 京都嵯峨芸術大学	
10/18(水)～29(日) OB・OGフロント展		〒616-8362 京都市右京区嵯峨五島町1番地	
11/1(水)～19(日) CGの美少女展		TEL.075-864-7859	
11/21(火)～30(木) チャリティーオークション展		FAX.075-882-7770	
		info@kyoto-saga.ac.jp	
■ 教職員展覧会情報		■ 京都嵯峨芸術大学公式サイトのご案内	
開催中～9/10 GLOBOS SONDA(TRIAL BALLONS) MUSAC美術館（スペイン） 江村耕市（キュビキュビとして出品）		京都嵯峨芸術大学公式サイトでも嵯峨芸 情報をご覧いただけます。 ＜PC・携帯＞ http://www.kyoto-saga.ac.jp	
7/4～9/24 滋賀県立陶芸の森15周年記念展「信楽を訪れた594人の陶芸家たちー アーティスト・イン・レジデンス」 滋賀県立陶芸の森陶芸館（滋 賀） 日野田崇		また、こちらのQRコードを使って携帯 サイトにアクセスすることも 出来ます。 ぜひご利用ください。	
9/1～16 第91回二科展 東京都美術館（東京） 黒川昭夫・入佐美南子			
9/24～10/8 「表現の位相/6人の方法」展 ギャラリー開（兵庫） 中井浩史			
10/17～10/31 創画展 東京都美術館（東京） 土手朋英・清水豊（非常勤）			
10/24～10/29 加藤明子展 ギャラリーマロニエ（京都）加藤明子			
10/31～11/5 個展（タイトル未定） galerie16（京都） 日野田崇			
11/2～11/18 創画展 京都市美術館（京都） 土手朋英・清水豊（非常勤）			
11/3～1/8 特別展「人のかたちーもうひとつの陶芸美ーカルチャーギャップな やきものたちー」 兵庫陶芸美術館（兵庫県） 日野田崇			
11/14～11/19 中井浩史展 アートスペース虹（京都） 中井浩史			
11/21～12/3 個展 ギャラリーa（京都） 入佐美南子			

京都嵯峨芸術大学 広報		KYOTO SAGA UNIVERSITY OF ARTS PUBLIC RELATIONS	
Contribution		VOL.18	
要約 京都嵯峨芸術大学メディアデザイン学科開設記念シンポジウム		AUGUST 2006	
		News	
		理事会報告 2005年度決算報告 理事・評議員の交代 大学報告 メディアデザイン学科増設が認可 小学校教諭免許状取得に関して神戸親和女子大学と協定を締結 訃報(鯛天教授) 就職状況報告 受託研究報告「DANCE OF NIVES」 教育後援会報告	
Topics			
教員・学生の活動 えびす屋さんのポストカードに採用 DAS学生デザイン賞で本学学生が受賞 「8020をめざせ!」歯のキャラクター・コンペ 「仁和キッズとゆかいな妖怪たち」を企画			
学内イベント 夏祭り・寂聴さん来校 特別講座報告		Information	
附属機関 二人の卒業生展 「第4回活き粋倶楽部」展		京都嵯峨野文化サロン 生涯学習講座後期募集 オープンキャンパス 連続講座 京の美意識 あらし山びこ 博物館・ギャラリースケジュール 教職員展覧会情報	
		 KYOTO SAGA UNIVERSITY OF ARTS	

要約

京都嵯峨芸術大学メディアデザイン学科開設記念シンポジウム

「熱い想いをもう一度！」
～特撮からアニメへ、日本のヒット番組・今・昔～



「ジャパニメーション」という造語を生んだほど、日本のアニメーション文化は世界的に広く認知されています。また、日本のデジタル技術、ロボット開発分野も国際的に誇れるもので、若い人材の活躍する舞台は将来にも大きく開かれています。

この両者を芸術という表現力と融合し、学際的に体系づけ、実践技術も習得していただくため、2007年4月から本校にメディアデザイン学科が新設されます。

本日は、戦後日本の映像文化、アニメーション文化をつくりあげ、現在なお第一線でご活躍の先生方をお招きして、シンポジウムを通じて日本初の設立となった本学科の意義と魅力を専門家の視点から語っていただきます。

第1部 パネリストによるトーク

○福田千秋（ふくだちあき）



映画評論家。1937年東京生まれ。日本映画ペンクラブ、日本アカデミー賞協会会員。日本映画批評家大賞審査員。毎日映画コンクール審査員。

1994年ピクチャーを退社。以後フリー・ランサーとしてビデオ、DVDの買い付け、宣伝アドバイザー、書籍、イベントの企画、『スクリーン』、『キネマ旬報』、『この映画がすごい』等への執筆、ラジオ番組の構成、出演。映画の講師等を担当している。

子どものころ観たディズニー映画『白雪姫』に魅せられて、気がつけば半世紀以上映画漬けになります。いまでも年間500本は

観ていますね。映画の楽しみ方は、映画評論家として一世を風靡した故・淀川長治さんに教わりました。氏が編集長を務めていた雑誌、『映画の友』が月に一度開いていた例会に参加していたんです。「どんなつまらない映画にも何か一つぐらいは得るところがあるよ。それを見つけて下さい」という氏の言葉は、今も大事に守っているつもりです。

昔はハリウッドにしても、日本にしても、配給会社によって映画に特徴がありました。たとえば1924年創立、ライオンが吠えるクレジットでおなじみのMGMは、クラーク・ゲーブルやジュディー・ガーランドなどの大スターを起用したミュージカルや大作が得意。製作スタッフや仕掛けも豪華で、スタジオ見学で見た、『ターザン』の大規模な森林セットにはとても驚きましたね。

日本でいえば、ここ京都で1902年設立された松竹映画は、国産初のトーキー映画『マダムと女房』、国内初のカラー作品『カルメン故郷に帰る』などの話題作や「男はつらいよ」シリーズで日本映画界を牽引してきた存在です。太秦の映画村で有名な東映が発足したのは1947年。現代劇を得意とし、ヤクザものも含めて、高倉健、鶴田浩二、藤純子がたいへん活躍したところ です。

日本映画発祥の地にメディアデザイン学科ができるとのこと。一映像ファンとして大いに期待しています。

○飯島敏宏（いいじまとしひろ）



監督・プロデューサー。1932年東京生まれ。脚本家としてのペンネームは千束北男。

1957年ラジオ東京（現TBS）に入社。演出部に所属し、数本のテレビドラマで助監督を務めたのち、同年、『ますらを派出夫会』でテレビドラマ初演出となる。1966年、円谷プロダクションに出向し『ウルトラQ』などの特撮ドラマを演出。その後も円谷プロの代表作となる『ウルトラマン』や『ウルトラセブン』『怪奇大作戦』などを世に送り出した。1970年木下恵介プロダクション（現ドリマックス・テレビジョン）に出向し、山田太一の初期の代表作『それぞれの秋』など『木下恵介 人間の歌シリーズ』や、一大ブームを巻き起こした『金曜日の妻たちへ』を手がけ、「ドラマのTBS」の一翼を担った。

私は元々、小説家を志していたのですが、慶應大学在学中は放送研究会に所属し、お年寄りの声が出るとの理由だけで、役者まがいのことをしておりました。ある日、ラジオドラマのコンクールに出場しようという話を持ち上がったのですが、脚本を書ける人間がいない。そこで私が書くことになったんです。この作品がコンクールで優勝し、脚本家としての私のデビュー作品となりました。

ちょうどTBSラジオがTV局を開局したこともあり、入社したのですが、脚本部

がなかったため演出部へ回されて、AD、助監督修行時代は1、2時間では語り尽くせないほどの苦労をしました。当時のTVドラマは生放送か、主にアメリカからの輸入作品を放映していましたが、徐々に品薄になり、国産のTV映画をつくる必要性が出てきました。そこで、私が演出家として円谷プロさんとタッグを組み、つくったのが『ウルトラQ』です。

脚本家として一人前になるには、大型トランクにあふれるほどの原稿を書いて書いて、書き続けることだと、当時の諸先輩に言われ、それを実践しました。昨今は映像技術が飛躍的に進歩しましたが、基本となる脚本が、作品の善し悪しを決定します。気鋭の脚本家の成長を、映像業界は待ち望んでいます。

○上原正三（うえはらしょうぞう）



脚本家。1937年沖縄生まれ。

円谷プロに在籍し、1966年『ウルトラQ』でデビュー。その後『ウルトラセブン』『怪奇大作戦』『帰ってきたウルトラマン』

等の円谷作品で腕を奮い、数々の傑作エピソードを残した。1970年代後半は円谷プロから離れ、東映の特撮作品に参加。『宇宙刑事ギャバン』などの単体ヒーローや『秘密戦隊ゴレンジャー』などグループヒーローものの諸作でメインライターとし活躍。メタルヒーロー物やスーパー戦隊シリーズの礎を築く。

沖縄の高校時代から大の映画好きで、将来はシナリオライターになりたいと思っていました。標準語でものを書くなど考えられないというのが周囲の反応で、同級生に話しても一笑に付される始末でした。でも、夢をあきらめずに持ち続けていたところ、おばが沖縄出身のシナリオライターを紹介してくれたんです。それが （次ページへ続く）

金城哲夫さん、『ウルトラマン』の生みの親です。当時彼はまだ円谷英二監督のお弟子さん扱いでしたが。彼が「島人（しまんちゅ）」のよしみで円谷プロに紹介してくれたのですが、「脚本家志望は掃いて捨てるほどいる。何か賞を取って出直せ」と言われ、当時の文部省主催のシナリオコンクールに応募、一般公募で佳作入選し、晴れて円谷プロへ潜り込むことができました。このとき28歳。

当時は特撮番組というと、子ども向けのイメージが強く、「ジャリ番」と呼ばれて、職業とするようなものではないという偏見もありました。しかし円谷英二さんの「子どもに夢を」という信念のもとに動く現場の熱意がすごかった。火薬を仕込み、ガソリンに点火し、みんな命がけで撮影している。クリエイティブ魂に巻き込まれ、気が付くと40年、アニメの世界で生きております。

○藤川桂介（ふじかわけいすけ）



脚本家・小説家・放送作家・京都嵯峨芸術大学メディアデザイン学科客員教授（2007年度より）。1934年東京生まれ。日本文芸家協会、日本ペンクラブ、日本脚本家連盟会員。

1960年中盤から1970年中盤までを特撮テレビ番組の脚本家として、1970年代から1980年代はテレビアニメの脚本家として活躍した。1980年中盤以降は、活動の中心を小説の執筆に当てている。代表作に、アニメ『マジンガーZ』『六神合体ゴッドマーズ』『宇宙戦艦ヤマト』、小説『宇宙皇子』シリーズなど。漫画原作に『さすらいの太陽』がある。

円谷プロで『ウルトラマン』など特撮の脚本を書いていたときに、電通の方から「アニメーションも書けるでしょう」と声がかかり、『ムーミン』の企画に携わったのが、私がアニメーションの世界に入ったきっかけです。特撮時代は非常に大事にされていたのですが、当時は業界からも世間からも

「漫画のライターですか」と低く見られていました。アニメーションは絵が中心、作家よりはアニメーターが優遇されるんですね。番組が増え、アニメーターが絵を動かしているだけでは間に合わなくなって、しぶしぶ受け入れられたのが脚本家の立場でした。以来、アニメーションは子どもだけのものではない、大人も楽しめるものだという世の中を認知させたいという使命感に燃えて、この仕事を続けております。

私には、アニメーション文化を、年齢を問わず楽しめるエンターテインメントとして育て上げてきた自負があります。本学科では、この財産をしっかり受け継いでいただきながら、いまを担う若い人たちの特色を最大限に引き出し、世界に通用する質の高いクリエイターを、心血を注いで育て上げたいと考えています。



第2部 パネルディスカッション

○藤川

私は今まで数多くの脚本を世に送り出してきましたが、決まって受ける質問が「コンテンツを生み出すコツはどこにあるのか。マンネリ化にならないか」です。正直なところ、アイディアに困ったことはないんです。今がどんな時代かをしっかりとらえ、そのなかで視聴者に何を訴えるべきかを自分のなかできちんと決めたら、アイディアがどうとかいうことじゃない、筋は自然と見えてきます。やはり作家は、主張を持って書かなきゃだめです。私の講座ではぜひ、そういう作家たちを育てたいなと思っています。



○飯島

絵でも文章でも同じですが、これを伝えたいという熱意がなければ、モチーフがあっても表現はできないということも学んでほしいと思います。自分なりの表現方法を持たないと、アイディア勝負だけでは作品が広がりません。柔軟な感性を持つ若い時期に、できるだけ多くの試行錯誤を繰り返して、自分なりの表現力を磨いていただきたいですね。

○藤川

映像の世界では、書いたものを表現するためには監督や俳優、照明、音声などたくさんのスタッフがかかわります。彼らとのコミュニケーション力も、いい作品を完成させる大事な要素になります。

○福田

映画の世界も同じです。プロデューサーと監督の関係がうまくない映画は失敗します。プロデューサーは監督の表現したものを世間へ渡すバトン役。プロデューサーを無視し、ただ自分の思い込みだけで、だらだらと長い映像を撮る監督は、お金を払って見てもらうという商業意識に欠け、プロとしては失格ですね。



○上原

ある作品が当たると、その類似品があちこちから出てくる現状には感心しませんね。付和雷同するのではなく、自分の思うところを目指してほしい。そこから新しいモチーフなり発想が生まれてくるはずですよ。

○藤川

常識や慣例に縛られず、才能をじっくり開花させることのできる環境が、このメディアデザイン学科には用意されています。これからの日本のメディアシーンを担う若者育成に、私も及ばずながら尽力する所存です。ここ京都嵯峨芸術大学から、世界に誇れる映像文化を発信しましょう。

（終了）

2005年度収支決算報告

2005年度の消費収支は、学生数の減少を反映して、学納金、手数料、寄付金が前年度に比して減少し、一方、収入の多様化の努力により、補助金、事業収入が増加し、帰属収入は前年度より88百万円、4.1％減少の20億51百万円となりました。また借入金を通常の返済に加えて、1億7千万円繰上げ償還した結果、基本金組入額が4億26百万円となり、帰属収入から基本金組入額を差し引いた消費収入は16億25百万円となりました。前年度の消費収入は有響館建設による基本金組入れなどの要因で、14億61百万円であったので、1億64百万円、11.2％の伸びとなりました。

消費支出は、人件費、教育研究経費がわずかながら増加したものの、管理経費や借入金利息、資産処分差額が減少し、前年度より26百万円、1.4％減少の19億6百万円となりました。消費収支では未だ2億81百万円の支出超過ではありますが、帰属収入で1年間の消費支出は十分まかなえており、安定した経営を維持しています。

厳しい財政状況ではありますが、経費節減に努めながら、学生ホールの改修や実習B棟のエレベーター改修を実施し教育環境の向上に努めました。

帰属収入に占める人件費の比率（人件費比率）が54.5％と芸術系大学法人の全国平均（2004年度52.6％）をやや上回っています。これは短期大学部の臨時的定員を1999年度以降、計画的に減少させてきましたが、教育条件の維持のため、教員数を減員させていないためです。

また、良好な教育研究条件を維持するため、教育研究経費比率は

28％と、同全国平均（27.1％）をやや上回った水準を維持しています。

貸借対照表から見た財政状況は、短期的な支払い能力を判断する重要な指標である流動比率は、227％と一般に金融機関等で優良とみなされる200％を超えています。総資産に占める総負債の割合（総負債比率）が24.2％であり、不健全な水準ではありませんが、引き続き引き下げに努力します。

中期的な事業計画として、学園創立40周年（2011年）に向けて「記

念事業室」を発足させ、学園史の編纂をはじめとして、校舎改修などの大きな課題への取り組みを開始しました。また、学生の満足度が十分得られる教育環境の整備、地域貢献を目的とした文化事業など、大学活性化のため引き続き積極的に取り組んでいく必要があります。そのためにも学園スタッフは財政状況をよく理解し、危機認識を共有し、志願者の確保と入学者安定、ドロップアウトの抑止への努力を惜しんではなりません。

2005（平成17）年度消費収支計算書			
収入の部		支出の部	
科目	決算額	科目	決算額
学生生徒等納付金収入	1,770,523	人件費支出	117,464
手数料収入	29,297	教育研究経費支出	75,088
寄付金収入	7,789	（うち減価償却額）	33,400
補助金収入	193,359	管理経費	65,047
資産運用収入	582	（うち減価償却額）	720
事業収入	22,724	借入金等利息	7,355
雑収入	27,628	資産処分差額	912
帰属収入合計	2,051,902	消費支出の部合計	906,866
基本金組入額合計	△426,094	当年度消費支出超過額	1,057
消費収入の部合計	1,625,808	翌年度繰越消費支出超過額	2,232,705

貸借対照表 2006（平成18）年3月31日			
資産の部		負債・基本金・消費収支差額の部	
固定資産	8,129,173	固定負債	1,544,369
流動資産	2,135,741	流動負債	38,489
資産の部合計	10,264,914	負債の部合計	482,858
		基本金の部合計	0,014,761
		消費収支差額の部合計	-2,232,705
		負債・基本金・消費収支差額の部合計	0,264,914

理事・評議員の交代

2006年5月30日の理事会・評議員会において、以下の通り役員の改選が行われました。

退任
理事 細川 元雄（死去により）
大竹 仁子（辞任により）
新役員
理事 高岡 義寛
増田 洋
評議員
小澤 昇士

訃報

本学芸術学部、鯛天成夫教授が、2006年6月5日ご逝去されました（享年68歳）。鯛天教授は、1973年より嵯峨美術短期大学（現短期大学部）に着任、2001年度から芸術学部観光デザイン学科においてグラフィックデザインをご担当いただきました。2003年度末で定年を迎えられてからは、大学院の特任教授として院生の教育・研究にご尽力いただいております。謹んでお悔やみ申し上げますとともにご冥福をお祈りいたします。

教育後援会総会報告

7月2日11：00より、本学釈原キャンパス「有響館」4階にて2006年度京都嵯峨芸術大学教育後援会総会が開催されました。2005度決算、2006年度事業計画・予算、新役員・委員と、議事内容全て認められました。議事終了後本学園、坂口博翁理事長より「嵯峨天皇と空海のデザイン」と題して講演会が行われました。その後、食事をしながら各コース別懇談会が行われ、成績・進路・学生生活の相談ブースにも多くの参加をいただきました。

メディアデザイン学科増設が認可

大学広報vol17でお伝えしておりました芸術学部メディアデザイン学科の増設についての文部科学省への届出が、7月28日付文書にて正式に認可されました。また、芸術学部の収容定員増及び短期大学部の定員減について正式に認可されました。

なお、メディアデザイン学科についての詳細は、後日お伝えします。

京都嵯峨芸術大学

○増設学科

芸術学部 メディアデザイン学科（定員50名）

○定員増

芸術学部 125名 → 175名
編入学定員 24名 → 29名

京都嵯峨芸術大学短期大学部

○定員減

美術学科 250名 → 200名

2005年度卒業生就職支援状況

本学の2005年度の求人状況は、2004年度と比較すると件数が 25％増えています。求人募集の情報公開は、年々インターネットでの採用情報の公開に切り替えていく企業が増加し、求人増の主な業種としては、衣服その他繊維業や製造業の増加が目立ちます。また、その他のサービス業では、IT関係、ゲーム制作や映像・番組制作、社会福祉が増加しています。求人職種は、CG・Web制作のデザイナー、企画・制作が半数以上を占めており、営業・企画などがやや増加傾向にありました。

（2006年5月31日現在）

芸術学部			
	造形学科	観光デザイン学科	合計
卒業者数	106人	54人	160人
就職希望者数	52人	28人	80人
就職決定者数	39人	27人	66人
就職決定率	75.0％	96.4％	82.5％
短期大学部			
	美術学科	専攻科	合計
卒業者数	262人	51人	313人
就職希望者数	99人	22人	121人
就職決定者数	80人	19人	99人
就職決定率	80.8％	86.4％	81.8％

芸術学部メディアアート分野研究室が、松本泰章助教授を中心として、「型紙彫刻の工程をデジタル映像化する」受託研究を行いました。京都染型協同組合からの依頼で行われたこの研究は、京友禅彫刻部門伝統工芸士による「京友禅着尺図案染型技術」の全行程を記録保存し、後世に伝えることを目的として、手元の彫刻刀の動きをできるだけ詳しく記録しました。素早く繊細な動きを捕らえるため、前後左右の斜上方より多角的に撮影をするなど、総撮影時間34時間、編集記録24時間のハイビジョン映像アーカイブとなりました。また全記録映像の中から必要な部分を静止画としても取りだせるよう最高画質で編集作業を行いました。



小学校教諭(一種)免許状取得に関して神戸親和女子大学と協定を締結

本学と神戸親和女子大学は、2006年8月1日付で「京都嵯峨芸術大学と神戸親和女子大学との間における通信教育部科目等履修に関する協定書」を交わしました。これは同大学通信教育部の科目等履修生として本学学生を受け入れていただく協定で、学生が在学中に小学校教諭免許の取得が可能となります。なお、芸術系大学としては初の試みであり、2007年4月から小学校教諭免許状の取得プログラムを希望する学生対象にスタートさせます。

T O P I C S

附属機関

二人の卒業生作品展

6月7日～25日の17日間、京都嵯峨芸術大学附属ギャラリー並びに附属博物館において、漫画家「河井リツ子」さんの「原画展」と玩具プロデューサー「安齋レオ」さんの「フィギュア展」を開催しました。



普段なかなか目にすることのないイラスト・マンガ・絵本の原画や等身大のフィギュア・限定フィギュア等、お二人が創り出した作品を見に、学生や地域のみなさん、一般の方々など多くの来場者がありました。特に多くの卒業生が子どもを連れて久しぶりに母校を訪れてきてくれたことは嬉しいかぎりです。

また、24日には「安齋レオ」さんの講演会を開催し、盛況の中多数の来聴者が訪れました。



T O P I C S

附属機関

第4回活き粋倶楽部展を開催

本学の社会人入学生同志の親睦を図り相互研鑽することで大学生生活を有意義に、また、同時に一般学生との交流を深めることを目的として始まった同展覧会の第4回が、6月28日～7月9日の期間開催されました。今回は、卒業したOB・OGの3名も参加され、絵画18点、陶芸13点、写真1点の展示となりました。また、昨年在学中に志し半ばにして急病に倒れ他界した奥雅博氏（当時短期大学部1回生）の作品も、仲間達の作品と共に展示され、故人を偲ぶたくさんの方が来館されました。



学内イベント

特別講座報告

特別講座「西表島のエコツーリズム」が6月23日に開催されました。染色作家で、西表島のエコツーリズム協会を設立された石垣金星氏をお招きし、西表島のエコツーリズムについて語っていただくのと

同時に、西表島の伝統素材を使用した衣のファッションショーや、サンシンライブも行われるなど、多彩な内容になりました。



また、7月4日には「ポップ・シニール・キュート・アバンギャルド・ハイクオリティー石橋義正の世界」が行われました。講師にパフォーマンスグループ、キュピキュピや、TV番組「オー！マイキー」の活動で知られる石橋義正をお招きし、ご自身の活動などについて語っていただきました。AVホールで行われた同講座は、立ち見が出るほどの賑わいを見せました。



夏祭り・瀬戸内寂聴さん来校

夕涼みの中、7月7日の七夕の日に学友会主催の夏祭りが実施されました。天気が悪いにもかかわらず、例年にない盛り上がりを見せ、学友会、嵐芸祭実行委員、各クラ

ブ、京都学生祭典のメンバーなどの努力により、学内はお祭りの雰囲気であち、浴衣姿の学生や一般の方など参加者約500人が模擬店等での催しものを楽しみました。

催し物の内容はダンスやライブをはじめ、浴衣を着ている人へのスイカ配布、フリーマーケットなど、多岐に及びましたが、中でもTシャツコンペの授賞式で来場された瀬戸内寂聴氏のミニ講演には、たくさんの方が学生ホールに集まり、同氏の若者へ向けてのメッセージに聞き入っていました。



なお、コンペは応募総数40点より、短期大学部専攻科の松田匡弘さん、観光デザイン学科の飯田菜美恵さんがそれぞれ優秀賞を受賞されました。

教員・学生の活躍

DAS学生デザイン賞で
本学学生が受賞

大学や専門学校などでデザインを学ぶ学生が、みずみずしい感性と豊かな創造力を競う祭典「第38回毎日・DAS学生デザイン賞」コンペにおいて、プロダクトデザイン部門で本学観光デザイン学科卒業生の、小川留美さんの日本の家紋を積木にあしらった「文様積」、ビジュアルデザイン部門で同学科卒業生の江草祥子さんの文字を人体器官状にデザインした「文書編集の実験～人体器官編～」がそれぞれ入選されました。



小川留美「文様積」

江草祥子
「文書編集の実験～人体器官編～」「8020をめざせ！」
歯のキャラクター・コンペ

京都府歯科医師会から、「Keep 20 Till Your 80 (80歳の時点で20本以上の歯を残す)」ことをめざし、学内コンペとして制作依頼がありました。



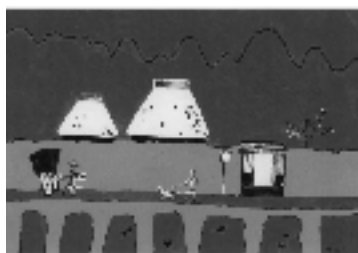
2006年2月10日、デザイン専攻科生25名の応募のなかから、イラストレーション2回生の谷上公弥子さんのキャラクターが選抜受賞、グラフィックデザイン2回生の小野智美さんがネーミング「いろ歯ちゃん」で特別賞を受けました。このキャラクターは各学校や保険施設などでの啓蒙活動用のゲームCDに活用されています。

「仁和キッズとゆかいな妖怪たち」
を企画

観光デザイン学科のイベントデザインゼミ（桑田政美教授）の3年生たちが、大將軍商店街（京都市上京区）の活性化を狙いに、地元小学生の描く新しい妖怪を立体化するプロジェクトを企画しました。7月19日に、同商店街近くの仁和小の5年生に自由に妖怪を描いてもらうワークショップを開催し、完成したユニークな図案を最終的に人形を作り、今秋にも発表します。

えびす屋さんの
ポストカードに採用

2005年度本学専攻科を修了された、永澤真実さんのイラストが、全国観光地で「人力車」などを展開しているえびす屋さんのポストカードに採用されました。これは昨年度3月頃にえびす屋さんの依頼により専攻科、本科の学生5名が嵯峨野の四季をテーマに作成したもので、今後他2名の作品も順次ポストカード化される予定です。



I N F O R M A T I O N

■ 第5回京都嵯峨野文化サロン開催

2002年に大本山大覚寺と本学が連携して開設した「京都嵯峨野文化サロン」の第5回を、「香りと音で紡ぐ『源氏物語』の世界」をテーマに、10月14日（土）大覚寺で開催します。（株）松栄堂 代表取締役社長の畑正高氏による講演「王朝の香り」と、一弦琴奏者の大西一叡氏による演奏を予定しています。平安時代のたたずまいを残す大覚寺で、日本独特の香りと一弦琴の音色に包まれてみませんか。参加ご希望の方は、往復はがきに郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、電話番号を明記の上、9月19日(火)～9月30日(土)の期間に下記へ送付してください（先着順）。



参加費：2,000円 先着250名

※往復はがき1枚につき原則1名。同行者のある場合は氏名も並記してください。

※当日、受講票により大覚寺並びに祇王寺の拝観ができます。

お申込み・お問合せは、京都嵯峨野文化サロン事務局（芸術文化研究所内）まで。

TEL：075-864-7898（直）

FAX：075-882-7770

geibunken@kyoto-saga.ac.jp

■ 生涯学習講座 秋期受講生募集！

今年度で4年目を迎える生涯学習講座は、多くの皆さまから受講申込みをいただき、実技講座から各種文化講座まで全39講座のうち、約半数が7月末までに終了しました。受講生からは、「毎回講座のある日を楽しみにしている」、「一般の習い事とは違い理論も学べた」などの意見をいただいています。地域社会に開かれた大学として、秋からも下記講座を開講予定です。お申込みは、ハガキ、FAXまたはEメールに、講座名・氏名・住所・連絡先等の必要事項を明記の上、下記までお申込みください。

お申込み・お問合せは、芸術文化研究所内 生涯学習講座係まで。

TEL：075-864-7898（直）

FAX：075-882-7770

geibunken@kyoto-saga.ac.jp

講座名	期間等	概要	講師	受講料他
中級英会話Ⅰ (定員20名)	9/16～10/28 毎週土曜日 (9/23を除く全6回) 13～14時30分	さまざまな場面に応じた自然な英語でのコミュニケーションの正しい表現方法を学びましょう。引き続き、中級英会話Ⅱ（11/11～12/16の毎週土曜日、全6回）も開講予定。	本学非常勤講師 ゲーリー・リー・マッシューズ	¥10,000 教材費 ¥2,200
おもしろコンピュータグラフィックス (定員20名)	9/19（火）～9/22（金） (連続4日間) 13～16時	フォトショップやフリーウェアを使い、コンピュータならではの作品を作ります。（Mac使用）	芸術学部教授 三宅 章介 芸術学部助教授 江村 耕市	¥8,000 教材費 ¥1,000
織をたのしむ (定員20名)	9/25～11/20 毎週月曜日 (10/9を除く全8回) 13～16時	各自の自由な色と形で下図を考え、フレームを使ってタペストリーを制作します。	短期大学部教授 吉水 絹代	¥16,000 教材費 ¥3,000
日本画 (制作B) (定員30名)	9/30～2/17 土曜日 (不定期・全12回) 13～16時	対象を深く観察し、日本画特有の材料、技法、思考を学び独自の表現世界を創り出します。	短期大学部教授 北村 正己	¥24,000